



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会 発行日 2020年6月7日

No. 73

すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、
ほかの国々の言葉で話した。

使徒言行録 2章4節



礼拝献花より

御言葉に生きる

御言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それを行うことができる。

申命記 30章 14節

ルーター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『風に吹かれて』

牧師 佐藤和宏

ヨハネ20章19節〜23節

「聖霊を受けなさい」。今日、主イエスは恐れる弟子たちに、そして今、不安と恐れの中にある私たちに告げられています。この「**霊**」は、「**風**」「**息**」さらには、「**命の息**」とも訳される言葉です。使徒言行録17章25節で、「すべての人に命と息と、その他すべてのものを与えてくださるのは、この神だからです」とパウロが語っています。また、ギリシャ語訳の旧約聖書では、創世記2章7節で「主なる神は土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた」と記されている箇所になります。いずれも、主なる神が「命の息」「**霊**」を人に与え、そして人が生きる者となったことが明らかにされています。同じように、今日主イエスが「聖霊を受けなさい」と言われているのは、私たちが再び神によって生きるためなのです。

周囲の状況の変化に惑わされて恐れる私たちは、知らなければならな

いのです。すべてが主の御手のうちにあるということ。「すべて」と言う時、それがたとえ悪と映るような事柄をも、含んでいることは明らかです。弟子たちの期待とはちがひ、イエスが敵に捕らえられたことも、彼らには敗北のようにみえた十字架の死も、そして、私たちに目にはただただ撃退する対象にしか映らない新型ウイルスさえも、その「すべて」に含まれているのです。それを含めすべてが、主の御手のうちにある事実に信頼するとき、私たちはもはや恐れる必要がないことを知って、安心して生き始めるのです。これが聖霊を受けて、神によって生きるということなのです。

主イエスは今日、「息を吹きかけて、『聖霊を受けなさい』と告げているのですが、「息を吹きかける」と訳されているギリシャ語は、新約聖書ではここだけに用いられているようです。特殊な言葉であることが想像できます。この言葉の参照として、エゼキエル書37章5節があげられています。ギリシャ語訳の旧約聖書では、同じ言葉が使われているのです。そこで、エゼキエル書37章に目を向け

てみたいと思います。それは「枯れた骨の復活」と小見出しがつけられている箇所になり、5節では次のように言われています。「これらの骨に向かつて、主なる神はこう言われる。見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。するとお前たちは生き返る」。このように、エゼキエル書37章では「**霊**を吹き込む」と訳されている言葉が、今日、主イエスが弟子たちに「**息**を吹きかけられた」と言われている言葉と一致しているのです。エゼキエル書によると、「枯れた骨」とはイスラエルの民であり、彼らが枯れた骨のようになっていたのは、彼らが絶望したためでした。彼らは主なる神に従わなかったため、敵の手により遠い外国の地に、捕囚の民として連れ去られたのでした。エルサレムに神殿を持ち、それを抛り所としていた彼らにとって、このことは屈辱である以上に、その存在意義が否定されるような経験でした。神に従い、神に守られてきたと確信していた彼らですら、神に見捨てられたと考えたことでしょうか。こうして彼らは絶望したのです。しかも「**枯れた骨**」は「甚だしく枯れていた(2節)」と

あるように、彼らの絶望は深く、もはや絶えるしかないほどでした。しかし、主なる神が彼らに霊を吹き込むと、彼らは生きる者となったというのです。エゼキエル書で告げられていることは、絶望し、枯れた骨のようになっていた民に主が霊を吹き込まれると、彼らは生きる者となったということなのです。ここで用いられている言葉と同じ言葉が、新約聖書では今日の日課だけに使われているという事実は、エゼキエル書の出来事と重ねて、今日の日課に目を向ける必要があるということにちがひありません。つまり今日、復活の主イエスが恐れる弟子たちのところに来て、真ん中に立たれ、息を吹きかけられたのは、彼らに新たな希望を与え、彼らを新たに生かすためなのです。これが神によって生きるということなのです。

聖霊という風に吹かれて、命の息を吹き入れられて、私たちは不安と恐れの中に希望を見失ったとしても、今日も新たな希望を与えられて、ただキリストにあつて一つとされた教会として生き始めるのです。

(聖霊降臨)

有ったら、儲けもの

○山○

沢山の兄弟姉妹の祈りに包まれて、天に召されることを感謝しています。「天国ってどんな所なのですか？」未だ天に召されたことがないので、分かりません。「本当に神様がそこに居るのでしょうか？」それも分かりません。居るか、居な

告します。

「有ったら儲けものじゃない？」と言われたのは、日吉教会の初代牧師、三浦芳夫先生でした。

私が高校生の頃、当時住んでいた日吉に、三浦芳夫先生が、日吉教会開設の準備—現在の日吉教会とは違う場所です—のために、日吉にお住まいでした。辺り一面大草原の中の、小さな家という感じでした。

前後関係ははつきり覚えていませんが、当時の礼拝は桜新町に通っていました。ここでは新規受洗者がいないので、「○山君どう？ 洗礼を受けない？」と誘われたのでした。



■○山○兄（撮影 田○忠○兄）

頼まれると「ノー」とは言えない性格なので、その旨を三浦先生

に相談した処、先生の答えはこうでした。

「ボクも（神様に）会ったことがないから分からない。でも、もし居たら儲けものじゃないの。断ってしまつたら、それでお終いだからネ。」

それもそうだなと、変に得心し、1960年4月17日、16歳の時に、アレクサンダー・マイヤー宣教師から受洗しました。

その後、1962年に日吉教会が献堂され、オルガニストは○子でした。

家庭の事情で下宿住まいだった大、就職した会社の勤務先の名古屋時代は、全く教会から離れていました。

1972年3月1日付けで管理職登用の内示を受けていましたが、一つ条件がありました。それ迄に結婚していることでした。

周りは営業職の方を含め女性ばかり（独身男性・独身女性11..50）の職場でしたから、この条件も尤もなことでした。どうしたものか！

と思っていた時、偶然、○子から電話がありました。当時、彼女の父親が名古屋勤務だったので、名古屋に

来るとのこと。

「天恵（啓）」と思いました。

その日に状況を説明し、その夜ご両親に、その旨を伝えました。そして、3月1日の直前の2月27日に日吉教会で結婚式を挙げました。

私が食道癌を告げられたのは、2014年クリスマススイブの日でした。とんでもないクリスマスプレゼントだと思われました。お酒大好き、タバコも止められないから、「いつかガンになる」と○子に止めることを嘆願されながら、今日まで過ごしました。

年明けの1月4日に入院し、抗がん剤治療検査を受けましたが効果なく、一時退院しました。

再入院までの間、1月24日（土）に大好きなカサゴ釣りに高校時代の友人に付き合ってもらい、翌週には山○兄、○田兄に付き合ってもらい、自分のメンバーコースでゴルフを楽しみました。

（今年の初め、月報委員より○山○さんに原稿を依頼してありました。召天後、下書きメモが2枚見つけ、編集、掲載いたしました。）

●召天 ○山○さん（5月8日）

○山○さんが5月8日にご自宅にて天に召されました。最後までご自宅で過ごしたいというご本人の希望が適い、憩いのときが与えられていることと思います。前日、ご自宅をお訪ねし、しばらくあれこれとお話を聞かせていただき、「また明日、お訪ねします」という挨拶が、最後の言葉になりました。新型コロナウイルスの影響のもと、ご家族のみのご葬儀となりましたが、多くの方々が、道の反対側に集い、見送られていた姿が印象的でした。（佐藤）



○山○兄を偲んで 名○匠○

新型コロナウイルス感染防止のため「緊急事態宣言」が発出され外出自粛要請が出されて1ヶ月、その日に○山○兄は神様のもとに旅立たれました。3密を避けるために、慕われた兄を教会の兄弟姉妹で送ることが出来なかったことは寂しく心残りがあります。

○兄、先に行って後に続く者のた

めにとりなしをしてください！又相まみえるときまで安らかにありますようにと祈りました。

○山○兄との出会いは、37年前「城南神奈川地区10の教会で一つの教会を」テーマに、開拓伝道プロジェクトがスタートしたときにさかのぼります。○兄一家は日吉教会から、私は大岡山教会から参加して、開拓真つ盛りの田園都市沿線に移り住む信徒（兄弟姉妹）の心の拠点教会にしようとの願いをこめて、新町教会の信徒を中心に32名が集まり開拓プロジェクトは始動致しました。有能であった○山一家は、全てにおいて中心的なメンバーとして活動なさいました。「プロジェクト委員・役員・CS教師・オルガニスト・聖歌隊・女子会役員・特別伝道委員・典礼委員・等々」、教会内外の重要役を担っておられ心優しい兄から、私などは多方面のご指導を頂きました。

○兄のお働きをすべて紹介するとは出来ませんが幾つか上げてみますと、信徒や各方面からの大切な献金を安全で利率のよい運用を提案してくださり、本教会への返済も予定期間の半分で完済して一種教会に1

年半でのぼり、開拓伝道プロジェクトの成功を喜びました。寄せ集め教会員の友和を密にするために色々なアイデアを提案して、教会員一丸となって成長と伝道に向けての助力をたくさんしてくださいました。本当に感謝です。

CSの教会外活動（夏の宿泊キャンプ・近隣公園での遊び）等々今でも子供達の思い出になっています。夏になりますとサマーキャンプ（修養会）と称して家族ぐるみで郊外に出かけて、散策遊び等を楽しみ輪を密に広がりました。忙しい中でも親密になり教会の成長期でした。

○兄は今の教会の現状を憂いて現役引退組で教会を支える道筋・柱を立てたいと熱望していましたが、病に倒れてしまい快復にいたりませんでした。残念に思っていたことと推察しています。私に「何とかしたい・何とかしたい」と顔を会わせる度に呟いていました。私共は彼のこの思いを受け止めることが出来るかどうか分かりませんが、残された時間で少しでもかたちにしたと思うっています。

残された○山○子姉は信仰深く聡

明な方ですし、友人の多い方ですからこの寂しさや心細さを乗り越えられると信じています。でも、教会員全員で寂しい不安心を支えていけるようにお祈りをし続けたいと思います。神様の導きと平安がありますように祈ります。

ドイツにおられるお嬢様の上にも神様の導きが豊かにあり育んでくださいますようにお祈り致します。思いを十分に綴ることが出来ません。私自身も晟兄と主の下で時をおかずに会えることと思っておりますので胸がつまり多くは語れません。ごめんなさい。



○山○さん 山○○司

私にとって○山○さんは教会生活上の兄のような存在ですし、青葉区のいろいろな趣味の会での良き先輩でもあります。

青葉区が緑区から分離して間もない頃、私と家内はあざみ野に引っ越しして来ました。そして藤が丘教会を見つけ通い始めました。当教会訪問が2回目くらいの時、礼拝のあと帰ろうとすると、「お茶飲んでかない」



と、○山兄から声をかけられ話をするようにになりました。その後は○山兄の人的ネットワークで自然と藤が丘教会の一員になりました。○山兄に感謝です。

今回は、皆さんが知らないであろう教会以外での○山○さんの事を、少々ご紹介したいと思います。2008年夏、リーマンショックの金融危機が起きましたが、この年秋に私は予定通り定年を迎えました。もう働かないで好きなことにチャレンジしようと、心に決めていましたが、まだ何も先が見えていません

した。そんな折柄、○山先輩から「今年定年だよね、そのあと何か考えているの」と話がありました。まだ何も決めていないことを言うと、「それなら自分が入会している青葉区のいくつかの趣味の会にでも入ったら」とお誘いを受けました。そんなわけで、○山先輩のネットワークで、青葉区の地元デビューできました。所属されていた「青葉まっぴい」、「青葉郷土史の会」、「横浜あおば史談会」そして「青葉OBサロン」の四つの会に入会しました。そして仕事以外の新しいことに挑戦でき、いろいろな分野の諸先輩にお会いすることができました。また「ゴルフも一緒にやらないか」と、ご自分が所属していたTゴルフ倶楽部に誘われ、私も会員となり、元気なうちは二人で何度もプレーに出かけました。またまた○山先輩に感謝です。

これらの諸会合で、月に6〜7回○山先輩とお会いしました。教会は月4回ですので、皆様よりははるかに○山さんとの接触は濃かったです。

皆様ご存じのように、○山さんはとっても人づきあいが良い方でした。そしてお酒の入る会合が大好きでした。特に「あおば史談会」と「青葉OBサロン」では、会合後もしくは会合中アルコールをいただきますので、会話がはずみ楽しいひと時が過ぎてゆきました。また歴史が大好きで、東京国立博物館や横浜市歴史博物館にも一緒に出かけました。このような場面に○山先輩とご一緒できたことは素晴らしいことでした。教会と、人との交流と、おいしいお酒と歴史をこよなく愛した○山さんでした。

○さん、何事にも前向きで時には強い信念を熱く語り、又溢れんばかりの優しさで包み込んでくださいましたね。

ご家族を大変愛し、「○子の漬け物は世界一」と照れながら言われ、昨年のベルリンで○子さん、○さんご一家と迎えたイースターも、嬉しそうにお話しして下さいました。家庭集会には何回かいらして、途中で帰られるので玄関でお見送りをしようとした時に「皆さんに美味しいお茶とお菓子をだしてあげてね」と言われたのを昨日のようにふと思いだし、あの時のお茶は○さんの暖かい心配りが入り、格別美味しく頂きましたよ。



○山○さんへ 江○○子

○さんが天に旅立たれて十日余り過ぎました。

運転している時にシルバークレイのホンダフィットとすれ違う度、いつも笑顔で運転席から手を振って下さった○さんを思い出します。

神様を教会をこよなく愛し、揺るぎない信仰の下で教会、信徒の皆様、牧師先生を常に支えて下さった

体調が辛くなってからも昨年は委員会、講演会、コンサートに積極的に参加して下さいました。日曜日の礼拝、一番前のいつもの席に座っていらしたお姿はいつまでも心に刻まれています。

先に天に召された兄弟姉妹、愛犬ベスちゃんと再会を果たし、皆様共に私達を見守って下さっていることと思います。

今までの感謝を込めて…。

礼拝再開への

手順について

3月29日以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、礼拝を休止してまいりました。毎週の礼拝が、当たり前のように巡って来ると思っていた私たちに、この休止期間は、キリストの名によって繰り返して集まることの大切さ、そしてその恵み深さを改めて教えてくれました。

●「三密」への対応 いよいよ藤が丘教会での、礼拝再開の見通しがたつてまいりました。みんなで集まりたいところですが、ここはもうしばらく忍耐をもって、14日より段階的に再開をしてみたいと思います。教会全体を7つの地域グループに分け、緊急連絡等に用いています。「密集」への対応として第一段階では、この7つのグループを3つのグループに組み合わせ、それぞれがおおよそ20人程になるようにいたしました。一つ目のグループは14日、二つ目のグループは21日、そして三つ目のグループは28日の礼拝にご参集いただければと思います。6月はこのように一度ずつですが、礼拝再開の第一

段階としたいと思っています。その上で座席を限定し、間隔を十分に取れるようにいたします。「密接」への対応としては、教会外の方々が礼拝に出席を希望される場合、あらかじめ連絡をいただくよう呼びかけると共に、来会された場合には、連絡先をいただくようにします。「密閉」への対応では、礼拝中、窓を開放いたします。その他、玄関には消毒スプレー、受付にはシートを用意し、皆さんにはマスクの着用をお願いいたします。受付にも予備のマスクを用意してお待ちしています。

●第二段階 その後、第二段階には、社会の状況をみて、移行するかどうか判断していくこととなります。その時期は、現時点では未定というところです。第二段階は、先の7つの地域グループを2つに分け、それぞれおおよそ30人程になるようにいたしました。また、最初のグループは第1日曜日と第3日曜日、次のグループは第2日曜日と第4日曜日に出席できるようにしたいと思います。「密接」「密閉」への対応は、第一段階同様にいたします。

●最終段階 二つの段階を経て、最

終的に通常の礼拝に戻ることになります。それが、いつになるか現時点ではわかりませんが、そのときを待ち望みつつ、確実に段階を経てまいりましょう。

●礼拝・その他の対応 礼拝式文は、当国歌わず唱え、讃美歌は、各曲一節のみを歌うことを考えています。式文を唱えることには、積極的な意味もあります。もともと式文は唱える速度が適していますので、この機会に式文の本来のテンポを体感していただければと思います。また、式文の言葉に注意を傾け、礼拝の構成を意識する機会になればとも思っています。

す。この他、聖餐式は当面、見送ることになるかもしれません。

●諸集会の対応 礼拝後のお茶の時間は、「密集」の機会にもなり得ますので、当面休止とさせていただきます。聖研、女性会、お仕事会、手仕事サロンも当面休止を継続し、担当者と相談しながら、再開の日程を決めていければいいと思います。

私たち教会の群れから感染者を出さないこと、感染源とならないことに、最大限の注意を払いつつ、礼拝再開を段階的に進めていきたいと思っています。どうぞ、ご理解、ご協力をお願いします。(佐藤)

今月の受洗記念日の皆さん

- 2日 ○山○子
- 3日 ○村○子、田○子
- 田喜○
- 6日 田○忠○、○本○子、武○子
- 10日 ○内○生

おめでとございます。



「御言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それを行うことができる。」申命記30章14節
藤が丘教会ウェブサイト <https://www.jelc-fujigaoka.org/>
フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日曜日午前10時半)